TMS研究会

ＴＭＳ研究会初代会長・伊佐 公男（福井大学 教育地域科学部）

1996年 福井市のフェニックスプラザで日本質量分析（MS）学会総合討論会が開催されました。MS学会 そのころが、参加者が少なく、底をつく様な状態でしたが、実行委員会は小さい福井県での開催で、関西、関東などからの支援で盛り上がっておりました。委員や、若い会員が多数集まってくれたため、いわゆる危機感あふれる会合でしたが、大変内部的には盛り上がりました。その後田中耕一さんのノーベル化学賞など想像できない状態で、夢のような事も起こるんだというのが実感でした。そのような会期中に、唐突でしたがTG-MS（熱重量質量）分析研究会のことですが、その研究会をつくるべくMS学会内部で準備会を開きました。福井県警察本部科学捜査研究所現所長の長谷川博士の準備の下、集まった方が、精一杯の提案をしてくださったおかげで、発足できたこと、その後、多くのだいじな経験をすることができました。

TG技術は1925年に東北大学の本多光太郎博士によって日本オリジナルな技術として発達し、その後も脈々として活用されてきました。その手法ではマクロな情報しか得らませんが、多くに貴重な情報が、得られデータが多数集積されてきました。しかし、MS技術が、手じか入手可能になってきたことから、TG-MSのような hyphonated technologyとして何とかならないかと考えられてきましたが、なかなか、使い勝手の良い装置にはならない状態が続きました。日本では、理学電機（株）の千田様や岸様、島津製作所などで、また、海外ではNetscheなどの研究者・技術者が開発を行い、また、実際に使用グループが活用例を示し始めていました。研究会は、位置づけなどの今でも貴重な議論を経て、日本MS学会のもとにTG-MS部会が発足できました。熱分解ガスクロマトグラフィー研究会や熱分析学会とも親密な関係を維持して研究会は順調に伸展してきました。

MS学会誌の特集号２回出せたのはTG-MS部会があってのことで、メンバーの気持ちの高ぶりのようなものを、感じた時期です。小生は福井大学の附属中学校の校長など、教育の中にどっぷりつかった状態での、研究会会長は、不十分なお世話であったと恐縮しております。そのころは、MS学会の“経営”も厳しく、部会は、経済的には、自前の活動でしたが、学会誌の編集など、萌芽期の部会としては、順調な状態のスタートが切れました。世話をして下さる幹事の力が、大きかった様に思います。

これまでのTG-MS研究会、TMS研究会、TMS部会、TMS研究会とTMS部会など、紆余曲折はありますが、会長の小生が、山下博士に会長に代わって頂いた時から、一段と新たな挑戦になってくれると期待しております。顧問の先生方、委員の先生方、若い参加者などが毎回、議論できることが大変うれしい時間を共有で出来ております。

TMS研究会のこれまでの経過は、課題だらけであった様に思いますが、もし、会長が聡明であったら、このような紆余曲折は無かったであろう。いっぽう、愚鈍であったから、ここまで続けられた可能性もあるなどと考えております。小生など、実験（実権でない）派は、続ける中で、賢くなってきたように思います。実験が人間を育てるという信念をもてるような教育がある分野が、ＴＭＳ研究会で、今後かなり飛躍できそうな時期がきており、期待が大きい。

TMS研究会からは多数の賞をもらった方が輩出しました。さらに、学位を取った話を聞いております。現在は、大変厳しい、忙しい時代ですが、研究会で、じっくり話が聞けるのは他にそう多くはない。昼から夕方まで、じっくり５～６件の話を聞け、その後、懇親会に参加し、三々五々帰っていくスタイル今のTMS研究会の素晴らしい点では無かろうか。

多くの研究者と同様に、従来、学会活動してこられたが、じっくり話を聞きたい希望で集まれる研究会を独立して作ってきた集団です。参加することが楽しい自分の意志とともに、他の方のこれまでの、その今後の素晴らしい企画や行動に深く感謝することものである。今後の益々のＴＭＳ研究会の発展を期待し、一緒に頑張りたいと思います。